

(目的) よりよい室内環境を実現するために、また省エネルギーをめざして空調熱負荷計算など室内環境予測のための研究は絶え間なく行われている。しかし計画や設備設計に直接携わらないような生活者の立場からすれば、理解が容易な指標が欲しいところであり、またそれを視覚的に捉えることができればなお都合よいと思われる。本報では生活者の視座から室内温熱環境を明らかにすべく、至適環境実現のための諸分布を求めてみる。

(方法) 日本各地域32の標準気象データ平均年と単室定常モデルとを用いて、外気温、日射量、雲量、湿度が室内に与える影響を、夏期(6, 7, 8, 9月)、冬期(1, 2, 3, 12月)、年間の期間別平均によって求め、外気温、室温、SET\*、至適環境実現のための負荷量、着衣量の諸分布図を作成し、地域特性の検討を行う。

(結果) 室温は外気温と比べると、夏期は東北、冬期は四国、北九州あたりを境に、年間では中部、東北地域だけが温度の上昇度が異なる。また、SET\*は室温と比べると、夏期、高緯度地域では1℃程高いだけであるが、低緯度になるほど差が開き、最高4℃の上昇となっている。冬期は逆に高緯度になるほど差が開き、低緯度で約4℃、高緯度で約8℃の上昇である。年間ではどの地域も5℃前後の上昇である。